

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：12401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23730227

研究課題名(和文) アジアにおける靴産業の再編とバリューチェーン：インフォーマル経済に注目して

研究課題名(英文) The restructuring and the value chain of the footwear industry in Asia

## 研究代表者

遠藤 環 (ENDO, Tamaki)

埼玉大学・経済学部・准教授

研究者番号：30452288

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、タイの靴産業を事例に、グローバル化時代のインフォーマル経済に注目しながら、バリューチェーン分析を、経済的側面、制度・社会的側面の両方から実証的に行うことが目的である。アジア域内の再編と連動して、靴産業の再編は大きく進んでいた。第1に、大手資本の対応戦略をみると、一方で産業高度化に取り組みつつも、他方では安価な労働力を求めて生産拠点の「移転」を進めている。第2に、国際化が進んできた零細資本に関しては、移転や廃業、インフォーマル化が対応戦略の中心であり、第3に、インフォーマル・フォーマル部門の接近と競争の激化が見られること、第4に、産業の高度化が制約を受けていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：The aim of the research is to conduct research on the Informal Economy with special reference to the Global Value Chain (GVC) from perspective of economics and also political/social aspects. Along with the restructuring of the footwear industry in Asia, the industry in Thailand have been going through the severe restructuring process. The large enterprises take dual surviving strategies, conducting functional upgrading one hand, and 'relocate' to other area in order to reduce labour cost on the other. If we turn our eye to the micro and small enterprises, there were different trends. They show trend that either relocate, exit, or going informal. These rapid change promote the change of the relationship between the formal and informal economy and create linkage but accelerate the competition as well. How to overcome the constrain of functional and industrial upgrading are one of the most crucial issues to be tackled.

研究分野：応用経済学

キーワード：バリューチェーン インフォーマル経済 靴産業 東南アジア グローバリゼーション タイ

## 1. 研究開始当初の背景

本研究(「アジアにおける靴産業の再編とバリューチェーン：インフォーマル経済に注目して」)において、靴産業のバリューチェーン(Value Chain)に着目した背景には、それまでのタイにおける都市下層民のコミュニティにおける長期フィールド調査や、労働集約的産業(衣料・靴)に関する調査から得た幾つかの問題意識があった。従来の国際分業では捉えきれないような現象が出現しつつあり、都市下層民の中でも最下層に位置する内職労働者の生産活動も、グローバルな価値連鎖の中に位置しており、タイより「低開発国」として定義されている諸国の消費市場を支えていた。これらの現象は従来のヒエラルキーに基づく都市や商品の価値連鎖の研究からは理解できないものであった。そのため、科学研究費補助金研究「グローバル化時代のインフォーマル経済とバリューチェーン(2007年-2011年)」においては、衣料産業と靴産業に着目し、調査を実施した。調査からは、第1にアメリカ、ヨーロッパ市場への輸出の縮小と、近隣アジア諸国、中東への輸出の増大、第2に零細資本(インフォーマル経済に相当)のグローバル化の進展、第3に、労働集約的産業の地域的再編の進行と、フォーマル・インフォーマル経済の関係性の変化が明らかになった。アジアの域内統合の進展は、グローバル資本に機会を提供したのみならず、零細資本にも国際展開の契機を与えたのである。本研究では、それまでの研究成果をふまえて、アジア域内で大きく再編が進みつつある靴産業を事例に、アジア域内における再編の動向を面的に捉え、他国との比較を視野に入れつつ、タイの零細資本の国際化の動向と展望、グローバル資本、地場資本(大企業)との生産関係の変化や、生産・労働面における相違を明らかにすることが重要であるという問題関心から出発した。

## 2. 研究の目的

本研究は、グローバル化時代のインフォーマル経済に注目しながら、バリューチェーン(Value Chain)分析を、経済的側面、制度・社会的側面の両方から実証的に検討することが目的である。グローバル化の進展の中、労働集約的産業の地域的再編が顕著に進んでおり、その過程で、フォーマル経済のみならず、インフォーマル経済までもが、国際的な生産と流通のネットワークの中での地位を高めてきた。本研究では、アジアにおける靴産業を事例に、第1に、インフォーマル経済とされる零細資本のグローバル化、第2に、インフォーマル経済とフォーマル経済の連関の新しい展開について実証的に明らかにする。第3に、労働

者に対する再編の影響を検討する。

## 3. 研究の方法

本研究は、アジアにおける靴産業の再編の動向(生産・輸出)を捉えるために国際的な統計(UN Comtradeなどを使用)の分析、マクロ分析(貿易統計、産業統計などを使用。タイ、および競合国の中国など)、企業統計の分析、および企業類型別(グローバル資本、地場資本[大手]、零細資本)にたいするケーススタディによって構成された。調査は、生産体系の異なる革靴とスポーツシューズの両方を対象とした。また、類似産業である衣料産業の調査も継続して続けており、比較の観点から靴産業を考察することも試みた。

本調査の助成期間には、リーマンショック後の余波だけでなく、2011年のタイの洪水(一部の工場は一時的に操業を停止)、原材料価格の高騰やユーロ下落の影響を受け、産業内再編が顕著に進んでいた。また、2013年の最低賃金の上昇への対応や2015年に始まるASEAN経済共同体(AEC)を見越した新しい取り組みなども始まっていた。これらの変化とその影響を資本類型別に把握することも試みた。

マクロ分析や企業統計の分析では、統計データを用いて、産業構造の変化や輸出入の実態を時系列に整理すると同時に、タイ国内での生産ネットワークの広がりや把握に努めた。また、工業省から入手した工場登録の生データを用いて、過去5年間の企業の退出入の動向の実態の分析を行っている(データの分析は現在も継続中である)。工業連盟の靴部会、業界組織や技術者養成のために設置された教育機関にたいするインタビュー調査、技術訓練セミナーやトレードフェアへも参加し、参加企業への聞き取り調査を実施した。

ケーススタディでは、タイにおいては国際的なブランドを手がける大手資本や零細資本にたいするインタビュー調査を行い、それぞれ数社に関しては、リスクや産業再編にたいする対応戦略の内容と効果を把握するため、継続調査を毎年行うようにした。また、生産面ではなく、雇用関係、労働者の実態を把握するために、企業の人事担当者や労働者にたいする調査を実施した。

アジアの域内の靴産業のダイナミクスの中にタイ企業の生産活動や再編を位置づけるため、東南アジアに生産を外注している日系企業にたいするインタビュー(東京で実施)や、中国(上海近郊)での工場にたいするインタビュー調査も実施した。タイにおける靴産業の大きな再編が続いたため、中国や競合国における実態調査は、当初の予定ほどは進まなかったが、今後も調査を継続する予定である。

#### 4. 研究成果

本研究の実施期間(2011 - 2014年)はアジアの域内、またタイの国内においても靴産業の再編が大きく進んだ。タイにおける変化は、前述のとおり、2008年のリーマンショック以降の影響が残っていただけでなく、2011年のタイにおける大洪水と一部の工場への打撃、原材料価格の高騰やユーロ下落の影響などにより、産業内再編が顕著に進んでいた。また、2013年以降の最低賃金水準の上昇と全国一律水準の適用や2015年に始まるASEAN経済共同体(AEC)を見越した投資活動や再編が著しく進み、靴産業の業界組織の代表の方の言葉を借りれば、「対応と適応の時期」であったといえる。明らかになった点をまとめると以下の通りである。

第1に、国際ブランドのOEMを中心に、主に大手の地場資本が担ってきたスポーツシューズの生産は全体として縮小傾向が顕著であった。これは、グローバル資本の生産拠点の立地戦略の変更や、発注先の変更が関わっている。中所得国入りを果たし、主要産業も労働集約産業から資本集約的産業へと移行しつつあるタイは、グローバル資本からは、賃金コストが上昇してくることが懸念事項であるとされ、より低賃金な近隣諸国に発注先を変更することなどが進んだ。アジア域内で見ると、もともと靴生産で世界第一位の位置にあり、部品や原材料、靴製造の全ての工程で主要な位置を占める中国や、労働集約産業でタイにキャッチアップしつつあるベトナムなどの後発国のみならず、バングラデシュやミャンマー、カンボジアなどが投資先の候補として浮上し、競合国、靴産業の生産国の多様化が進んでいる。これらの再編にたいして、各企業は異なる対応戦略を見せていた。

企業の対応は、「再編」「移転」「廃業」のいずれかである。第2の特徴として、企業の対応戦略は、資本類型別に異なる傾向を見せたことが指摘できる。靴産業、特にスポーツシューズの国際ブランドの靴市場は顕著なバイヤー主導型(Buyer-driven)であることが特徴である。バリューチェーン全体にたいする支配力(governance)は、国際的なブランドを展開する海外の多国籍企業が握っている。かつては、タイの大手資本も国際ブランドのOEMのみに特化した生産に従事しているところが多かった。例えば、NIKEが発注先をベトナムの工場に変更するまでNIKEのスニーカーのOEM生産を請け負っていた最大大手のB社は、当時ほぼ100%をNIKEの商品に特化して生産を行っていた。現在では、国際ブランドの海外への流出などを受け、OEMの受注先の多様化(複数の企業と取引)

によるリスク分散や、デザイン部門を設置し、発注先にたいするデザインの提案や、産業の高度化を視野に入れた自社ブランドの開発などに着手している。また、発注量の変動や減少時には、多様な商品の生産に対応できるよう、革靴の生産への参入などが見られた。

それにたいして零細資本では、廃業や生産縮小が観察された。零細資本は主に革靴や布製の靴を国内市場、および近隣諸国、中東やアフリカのローニッチ市場にたいして輸出してきた。競争力の源泉は、生産性の向上や産業の高度化によってではなく、賃金の安い地域への移転や移民労働者の活用、インフォーマル化など、主に労働コストを切り下げることで維持されてきた。大手資本が危機に直面し始めた初期には、生産関係における接近が見られたものの、それらは大手資本の再編過程での一時的な現象でもあった。アジア域内では低級品の競合国は多く、安価な労働力のみでは競争力を維持できないため、新規顧客の開拓は進んでいない。そのような中、中程度の技術向上を図った企業とそれ以外の企業では顕著に差が出ており、危機時の退出も目立つ。

第3に、フォーマル・インフォーマル経済の関係性の変化、接近が進んでいるが、それは必ずしもフォーマル部門からインフォーマル部門への下請けの発注によるものではない。むしろ、フォーマル部門が、危機時にそれまでインフォーマル部門が担っていたような部門に一時的に参入することにより、競争を激化させている。

第4には、労働の側面に目を向けると、大手資本、零細資本のいずれも、深刻な労働力不足に直面していることが指摘できる。零細資本では、早くから移民労働者の雇用が進んでおり、その大部分はインフォーマルな形態であった。従来、被雇用者は全てタイ人であった大手資本も、2013年後半に入り、移民労働者を雇用し始めた。例えばB社では、わずか数ヶ月で、被雇用者の約50%の1000人をミャンマー人などの移民労働者に切り替えざるを得なかったという。特に熟練労働者の不足は、大手資本、零細資本に共通して競争力の維持、産業高度化の制約になっている。一方、零細資本の移民労働者や内職労働者の労働条件に目を向けると、諸政策の変更にもかかわらず、調査期間を通じて目立った労働条件の改善は見られなかった。ここでは、「底辺への競争(race to the bottom)」が起こっている可能性を否定できない。

第5に、産業の高度化の可能性についてである。靴産業は、同じく国際的競争にさらされている衣料産業に比べると、技術訓練、労働者の技術習得に時間がかかる。大手資本は、一方で、生産工程の向上(production

upgrading) とオリジナルブランドの開発 (functional upgrading) を進めつつも、他方で安価な労働コストを追求する戦略を維持しており、ほとんどの業界のトップ企業がカンボジアなどの近隣諸国に生産拠点を構える動きを見せている。零細資本については、オリジナルブランドを持っているところもあるが、中規模程度の技術向上を図りつつも、デザインや機能性の面では他国の同じく安価な商品と差異化を図るのは容易ではない。インフォーマルなバイヤーとのネットワークを維持しつつ、革や合成皮の特定の機能を持つ靴の製造 (軍靴、警備員用の靴など) にターゲットを特化するなど、生存を図っている企業では幾つかの工夫が見られる。とはいえ、安価な労働力のみでは、今後も競争力を維持していくのは難しいであろう。独自のネットワークを持つクラフト的生産は、これらの零細資本による低級商品、もしくはデザイナーによる一点ものの高級靴の両方が見られ、後者は業界組織による支援を受けてトレードフェアにも積極的に参加している。靴は衣料と異なり、高付加価値化を図るためには、デザイン性のみならず工学・医学的知識や開発を必要とする。アジア域内における競争国の増大、マクロ経済環境の変化の中で、順調な産業の高度化を進めていくのは容易ではなく、今回の危機を切り抜けた企業においても、今後も発展を維持していけるのか、現在はまさに岐路にあるといえる。

グローバル化は、単にヒト、モノ、カネが越境するだけでなく、内外で様々なレベルで結びつくことを意味している。グローバル化が進み、タイが中所得国になる過程では、大手資本のみならず、零細資本のグローバル化も進み、フォーマル・インフォーマル経済の境界も揺らぎつつあった。一方で、変化の早いグローバル経済やマクロ経済・労働政策の変化をうけ、競争力の維持をし続けるのが難しくなっている。危機や変化への対応が遅れた企業では、縮小、廃業も目立つようになってきた。十分に展開できなかった中国での実態調査と比較研究などは今後も継続しつつ、アジア域内のダイナミズムの中で、産業高度化をいかに実現できるか、またディーセントワーク実現の諸条件は何かという点については引き続き検討したい。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 9 件)

Kenta Goto, Tamaki Endo,  
'Labor-Intensive Industries in

Middle-Income Countries: Traps, Challenges and the Importance of the Domestic Market', *Journal of the Asia Pacific Economy*. Vol. 19, Issue 2, 2014, pp.369-386. (査読あり)

(<http://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13547860.2014.880283>)

Kenta Goto, Tamaki Endo, 'Upgrading, relocating, or going informal? Local survival strategies in the era of globalization: the case of the Thai garment industry', *Journal of Contemporary Asia*, Vol. 44. No.1, 2014, pp.1-18. (査読あり)

(<http://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/00472336.2013.794365?src=recsys>)

遠藤環、「タイのインフォーマル経済：第 13 回 都市のダイナミクスの中で」『タイ国情報』第 47 巻第 1 号、2013 年 1 月、pp.11-17。(査読なし)

遠藤環、「タイのインフォーマル経済：第 12 回 インフォーマル経済従事者にとってのコミュニティ」『タイ国情報』第 46 巻第 6 号、2012 年 11 月、pp.11-17。(査読なし)

遠藤環、「タイのインフォーマル経済：第 11 回 インフォーマル経済内の階層性 職業階層、上昇への経路」『タイ国情報』第 46 巻第 5 号、2012 年 9 月、pp.11-19。(査読なし)

遠藤環、「タイのインフォーマル経済：第 10 回 インフォーマル経済内の階層性 ジェンダー」『タイ国情報』第 46 巻第 4 号、2012 年 7 月、pp.10-15。(査

読なし)

遠藤環、「タイのインフォーマル経済：第9回 合法と非合法の合間で」『タイ国情報』第46巻第3号、2012年5月、pp.13-18。(査読なし)

遠藤環、「都市の貧困をはかる」『SEEDer(特集 都市をはかる)』No.5、2011年、pp.50-55。(査読なし)

遠藤環、「タイのインフォーマル経済：第5回 家内労働者」『タイ国情報』第45巻第3号、2011年5月、pp.36-43。(査読なし)

【 と は類似産業に関する業績】

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 2 件)

Tamaki Endo, 'Living with Risk: Precarity & Bangkok's Urban Poor', NUS Press in association with Kyoto University Press, Feb 2014. (328 pages)

遠藤環、「バンコク都市下層民のリスク対応(第8章)」速水洋子・西真如・木村周平編『人間圏の再構築：熱帯社会の潜在力』、京都大学学術出版会、2012年3月、pp.239-269。(総ページ：30頁)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

遠藤 環 (ENDO Tamaki)  
埼玉大学・経済学部・准教授

研究者番号：30452288

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：